

最後の富浦臨海 ～6年生～

6年生は、女子は、7月21日～7月24日にかけて、男子は、7月30日～8月2日にかけて、富浦へ行ってきました。男女ともに天候に恵まれ、海に入れない日はありませんでした。また、十分な意気込みで臨んだ60分間の大遠泳では、全員が無事に泳ぎ切ることができました。

最後の富浦臨海、安心をくれる友達の笑顔、ときには厳しく背中を押してくれる先生方、一緒に悩み、励ましてくれるOB、OGの先生方、おいしい食事を用意してあたたかく待っていてくれる寮の皆さんに、感謝の気持ちをもつことができました。



「明日は、大遠泳があります。一人ひとりの泳ぎを確かめ、より力を抜いて泳げるよう、頑張ります。」
海での活動はここから始まります。海に向かって目標を宣言するのは、水泳長の役割です。



「第1班、総員12名、現在員12名、異常ありません。」
浜では規律と気持ちづくりが大事です。全員の気持ちがそろい、態度が整うまで、点呼が繰り返されます。



「やった～あ!!、バンザ～イ!!」
人工島への上陸が、大遠泳へ挑戦する切符となります。なので、子どもたちにとって、当面の目標はこの人工島への上陸なのです。

6年生といえども、必ずしも泳力の高い子ばかりではありません。中には、なかなか岸から離れられない子もいます。しかし、人工島に上陸する友達の様子を見て、“同じ6年生なんだから、自分にもできるはずだ。” “足がつかなくても怖くないぞ。” と、ギュッと唇をかむ様子が見られました。その甲斐あって、3日目午前中には全員が人工島への上陸を果たしました。



「よしよ〜」「よしよ〜」「よしよ〜」「よしよ〜」
遠泳前の天突き体操。大泉小学校伝統の儀式です。
全員で気合を入れ、いざ海へ！



「60分、泳ぎ切るぞ！」「オ〜！」
いよいよ遠泳開始。全員海に入りました。



「エ〜ンヤコ〜ラ」「ヨ〜イヤコ〜ラ」
みんなで声を合わせます。海の中では、3列隊形を保ち
ます。前後左右は、3m間隔です。全員で大きな魚を作る
イメージです。先輩もかぶった遠泳帽をかぶって自分の
位置をキープします。



「照りつける太陽、砕ける白波、僕らの心は躍る…」
無事、全員が浜に戻りました。達成感に包まれ、右を見ても
左を見ても、笑顔があふれています。みんなで歌う「富浦臨
海生活の歌」は、心にしみます。



子どもたちにとって、最後の宿泊生活である富浦臨海生活最後の夜は和楽会とキャンドルファイヤーです。

無事、大遠泳を泳ぎ切った達成感と、これが、みんなで過ごす最後の夜になるんだという寂しさと、また一つ大きな行事が終わってしまったという空しさと、複雑な心境でろうそくの火を見つめる子どもたちの姿がそこにありました。